

『窓ぎわのトットちゃん』 講談社 黒柳 徹子／著

小学1年生で退学させられてしまったトットちゃんは、1クラス9人、全校で50人のトモエ学園に転校する。トットちゃんは、初対面で4時間も話を聞いてくれて「君は、本当はいい子なんだよ」と事あるごとに言ってくれる校長先生に見守られながら、楽しいことも悲しいこともたくさん経験して学校生活を送っていく。



トットちゃんとは著者のことであり、本作は子どもの頃の自伝である。いつの時代もどんな場所でも、全ての子どもが幸せに生きてほしいと願わずにはいられない。42年後に出版された続編も併せてお薦めしたい。